

CORAL REEF

CONTENTS—

★コーラル版ざだんかい
レポート

★秋のイベントスケジュール
★コラリウム実験室

だより(第2便)

Vol.14



発行元 社会福祉法人ラフト コーラル

〒274-0065 千葉県船橋市高根台 6-27-10

TEL/FAX 047-401-6460

編集人 土屋 滋朗

2025年9月30日 発行

第1回コーラル版ざだんかいレポート

～テーマ「表現って、なんだろう？」～

7月のある土曜日の夜、就業後のコーラルにて、ざだんかいがひっそりと開催されました。集まつたのは7名の職員。はてさて、どんな対話が繰り広げられたのでしょうか。

参加者には事前に、今回のテーマにまつわるいくつかのトピックが提示されていました。進行役の土屋が、そのトピックに沿って投げかけます。

【トピックI】人の心を打つ表現ってなんだろう？芸術作品に感動したことはありますか？それはどんな作品だった？

—福澤：わたしの場合、絵とかではないんですけど…仏像なんですよ。その中でも、十一面観音様が一番好きで。同じ観音様でも、作者によってお顔立ちが全然違うんです。わたしは仏像を見た時にしか、鳥肌が立つような感動は味わったことがないです。

—石山：感動したもので言うと、有名だからみんな知ってると思いますけど、わたしは映画の「タイタニック」です。映画館で初めて観た時は、しばらく立ち上がりませんでした。もう沈没する事がわかっている船の中、登場人物それぞれの凝縮された人間模様にものすごく感動して。

—大丸：わたしは、高校の美術部の顧問だった先生と二十歳になってから再会した時に、その先生が大学時代に描いたという絵を見せてもらうことがありました。お母さんが赤ちゃんを抱いている絵なんんですけど、見る人によって、暖かい絵にも暗い絵にも見えるような作品で。その曖昧さというか、答えのない感じが好きなのかもしれません。

【トピックII】「表現」はどこから生まれてくる？みんなの表現の源は一体なんだろう？

—上埜：実はわたし、子育てがめっちゃ辛かったんですよ。うまくいかない時っていろんなトラブルも重なって、負のループにはまってしまう。わたしはそういう時、ギターを持って歌を歌うと少しスッキリするんです。自分が抑圧された時に、「ムニュツ」とはみ出るものが人にはあると思っていて、わたしにとってはそれが歌うことなのかなって思います。

コーラルに来ている利用者さんも、本人がどう感じているかはわかりませんが、本当の意味で「自由」ではないと思うんです。だって、コンビニに行きたいなと思っても行けないわけで。表現って、そういった自由じゃない生活に風穴を開けるものであってほしいなあと思います。

—土屋：芸術って昇華の作用もありますもんね。それこそ、自身の抑圧された心境を反抗とか犯罪で返すのではなくて、作品という別の形に昇華させるという。

根源的な話をすると、幼少期に表現を通して誰かに褒められたり認められたりした経験って大きいと思うんですよね。自分から何かを発信することで、自分という存在が可視化される経験と言いますか。そういった個人個人の根源的なものを見つめ直した上で利用者さんの表現活動をあらためて見てみると、また見え方が違ってくるかもしれませんね。

—山本：わたしは小さい頃、すごく田舎に住んでいて、近所に文房具屋さんがあったんです。そこに藁半紙を買いに行くんですよ。「藁半紙くださ~い！」って一枚だけ売ってもらって、家に帰ってお絵描きするのが好きでした。新しい紙にこれから絵を描こうっていうワクワク感みたいなものが好きなのかも。

—福澤：利用者さんの中には、表現する行為を通して自分の気持ちをコントロールしようとしているのかなって思う方もいます。ひと通り、文字の羅列をガーッと書きなぐるとスッキリしたりして。とにかく書かずにはいられないっていう気持ちを感じます。

【トピックIII】表現に純度ってありますか？純粋な表現と、そうでない表現。その違いとは？

—土屋：先ほど人に褒められる経験のことを話しましたが、誰かに褒められたい、評価されたいっていう気持ちが強くなると、本来の表現することの目的から離れて、評価を得ることが創作の動機になっていっちゃう。そうすると、表現というものの純度が濁っていく感覚があるんです。一方で、人って当たり前ですけど一人では生きていなくて、人と人が関わる中でお互いに影響を受けたり、誰かに求められたりして、それに応えようとするのもひとつの自然な心の動きかなって思ったりもして。そういう感覚ってみんな持っているのかなと。

—上埜：手があるから振りたい。握りたい。足があるからジャンプしたい。走りたい。水をゴクゴク飲むように、絵を描きたい。大人になるといろんな事考えてわかなくなっちゃうから、そういう感覚は大事にしてます。自然にそういうふうにできればいいんですが、恥ずかしかったり、格好つけたりする自分もいて、いつもせめぎ合ってます。

—吉成：人からどう見られるか意識したりする気持ちは、あって当然というか、全くなかったらどうなっちゃうんだろうって思います。そういういろんな葛藤がありながら、年齢を重ねていくと、しがらみがだんだん剥がれていくような気もしています。

🍁秋のイベントスケジュール🍁

—山本:展覧会に行っていろんな作品を観たりするんですけど、やっぱり観る人が「なんだこれは!?」って感動するのは、その人自身から生まれてきたもの、その人自身がにじみ出ている作品なんですね。それが純度ってことなのかなあと思います。

【トピックIV】障害×表現。わたしたちは、彼らの表現とどう向き合っていけば良い?

—大丸:どうしてもわたしは、限られた時間の中でいろんな出来事に対応するのが精一杯で、なかなか利用者さんの本当の気持ちとかをじっくり汲み取れないんですけど....。でも、気付ける人はちゃんと気付けている。わたしもそういう目を培うことのできる人間になっていきたいなって思います。

—土屋:焦らなくていいと思います。一緒に過ごす時間と関係性って、比例はすると思う。ただまあ、何も考えずにただその日が終わればいいやって気持ちで関わっていたら、いくら時間があつても相手のことは見てこないかもしれない。相手のことを思いやる、思慮深さみたいなものを持って接していたら、おのずと時間とともに見えてくるものはあるんじゃないかなと思います。

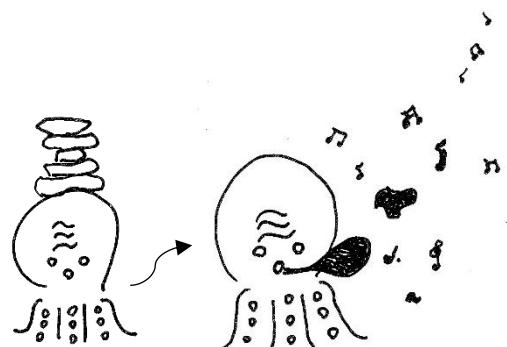
—吉成:わたしは障害を持つ子の親として、これからもっと、その人その人に応じた、その人たちにとって生きやすい場所っていうのが増えていくことを願ってしまいます。この先、国がどうなるかもわからないし、不安なことも多いんですが。

—土屋:そういう社会だったり国だったりを、我々も作っていかなければいけないですよね、やっぱり。理想の社会みたいなものをそれぞれに思い描きながら、利用者さんと関わっていくっていうことが大切なんじゃないかと思います。

—山本:今日の上埜さんの「ムニユツ」は深かったです。抑圧からの...ムニユツ!(笑)

—土屋:お饅頭みたい。餡が出ちゃう。

—上埜:ふふふ。良かったです(笑)



上埜職員作
「抑圧されてムニユツ」之図

今年の秋のコーラルは、販売会3本目白押しです！
ぜひ、皆様のご来場をお待ちしております！



■広場まつり

10月25日(土) 10:30~15:00

千葉市の福祉事業所・まるい広場が主催する「広場まつり」に出店いたします。多数の出店舗あり、ライブあり、bingoありのおまつりで楽しめること間違いなしです！

まるい広場 千葉市若葉区東寺山町663-8



⑥コーラルマルシェ

11月2日(日) 10:30~15:30

なんと、第1回(初)「コーラルマルシェ」を開催します！！

福祉事業所の雑貨や焼き菓子、農家さん直売の新鮮な野菜や果物、また、おいしい手作りパン♪などなど、たくさんの出店者をお招きました！

コーラルからは、オリジナル商品の販売のほか、フォトフレームワークショップ(午前の部11:00~・午後の部14:00~)を開催します。

みなさまのご来場を、心よりお待ちしております！

コーラル 船橋市高根台6-27-10



いちよう祭

11月8日(土) 9:15~13:15

コーラルメンバーの多くの母校でもある船橋市特別支援学校「いちよう祭」に参りました。懐かしい先生にも会えるかな？

コーラルメンバーの商品を卒業生として自信を持って販売します！

ぜひ、ご覧になってください！

船橋市立特別支援学校 船橋市金堀349-1



*いずれの会場も駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

コラリウム実験室だより(第2便)

text by Fujita Saki

前号より連載開始させていただきました。読者の皆様からのご愛顧に感謝申し上げます。コラリウムでは従来コーラルで行っているアート活動に加えて、新たな試みも隨時取り入れています。今号では今年の夏から挑戦している「染め物(絞り染め)」の活動についてご紹介させていただきます。

既にご存知の方もいらっしゃるかもしれません、コーラルのギャラリーショップでは2ヶ月ほど前から手拭いを販売しています。

その手拭いをコラリウムでどのように製作しているのかといいますと…

① 白無地の手拭いを用意して、布の内側にビー玉やペットボトルのキャップを包んでから輪ゴムでぐるぐる巻きにする。



② 手拭いを染色液の中に一晩漬け込む。



③ 染色された手拭いを水でよく洗い流して、輪ゴムを全て外す。

④ 手拭いを定着液に漬け込む。

⑤ 色と模様が定着した手拭いを再びよく洗って陰干しする。



左記の通り作業工程が多いため、基本的には2日間に跨って作業を進めています。染め粉をお湯で溶いた染色液を取り扱っているため指先が様々な色に染まっていることが多く、作業を終えた後はどの利用者さんも一流の染め物職人のような手になります。(石鹼で洗えば落ちるのでご安心を~)

当初は絞り染めという技法で手拭いを染め上げることが中心でしたが、最近は白無地の靴下に模様をつけて染め上げたり、同じく白無地のトートバッグを染め上げてから布地の部分に刺繍を施したりして、染め物作業による商品作りの幅も広がってきました。

特に手拭いに関してはギャラリーショップで販売していた数十本が短期間で完売してしまうほどの人気ぶりです。

上に挙げた手拭いや靴下、トートバッグ以外でも「こんな商品があったらいいな」といったご依頼をいただきましたら、お作りして販売することもできるかと思いますので、いつでもリクエストをお待ちしています♪